

# 国語

国語科においては、単元など内容や時間のまとまりを見通して、その中で育む資質・能力の育成に向けて、児童の主体的・対話的で深い学びの実現を図ることが求められています。その際、言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、言葉の特徴や使い方などを理解し自分の思いや考えを深める学習の充実を図ることが大切です。

## ◆ 「内容のまとまり」の考え方

国語科における内容のまとまりは、学習指導要領の「第2 各学年の目標及び内容」「2 内容」に次のように示されています。

- 〔知識及び技能〕
- (1) 言葉の特徴や使い方に関する事項
  - (2) 情報の扱い方に関する事項
  - (3) 我が国の言語文化に関する事項
- 〔思考力、判断力、表現力等〕
- A 話すこと・聞くこと
  - B 書くこと
  - C 読むこと

## ◆ 内容のまとまりごとの評価規準の作成

①国語科における「内容のまとまり」と「評価の観点」との関係を確認します。

「内容のまとまり」

〔知識及び技能〕 (1)言葉の特徴や使い方に関する事項 (2)情報の扱い方に関する事項 (3)我が国の言語文化に関する事項	〔思考力、判断力、表現力等〕 A 話すこと・聞くこと B 書くこと C 読むこと	該当する指導事項はない
「評価の観点」 知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度

〔観点ごとのポイント〕

- 「知識・技能」、「思考・判断・表現」の評価規準は、当該単元で育成を目指す資質・能力に該当する指導事項を用いて作成します。
- 「主体的に学習に取り組む態度」の評価規準は、知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取組を行おうとする側面と粘り強い取組を行う中で、自らの学習を調整しようとする側面の双方を適切に評価できるよう、当該単元で育成する資質・能力と言語活動に応じて作成します。

②観点ごとのポイントを踏まえ、「内容のまとまりごとの評価規準」を作成します。

【〈第4学年の（思考力、判断力、表現力等）の「C読むこと」〉の評価規準の例】

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、語彙を豊かにしている。 (1)オ	①「読むこと」において、登場人物の気持ちの変化について、場面の移り変わり結び付けて具体的に想像している。(C(1)エ) ②「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもっている。(C(1)オ)	①進んで、登場人物の気持ちの変化について、場面の移り変わり結び付けて具体的に想像し、学習課題に沿って、感じたことや考えたことを文章にまとめようとしている。

文末を「～している。」にします。

指導事項の文頭に「領域名」を入れます。

文末を「～しようとしている。」にします。

## ◆ 単元の評価規準の作成

国語科においては、例えば、次のような流れで授業を構想し、単元の評価規準を作成します。

Step 1  
単元で取り上げる指導事項の確認

・年間指導計画を基に、単元で取り上げる指導事項を確認します。

Step 2  
単元の目標と言語活動の設定

・指導事項を基に、単元の目標を設定するとともに、単元の目標を実現するために適した言語活動を位置付けます。

単元の目標

- (1)「知識及び技能」の目標
- (2)「思考力、判断力、表現力等」の目標  
→(1)、(2)については、基本的に指導事項の文末を「～できる。」として示します。
- (3)「学びに向かう力、人間性等」の目標  
→(3)については、いずれの単元においても当該学年の学年の目標である「言葉がもつよさ～思いや考えを伝え合おうとする。」までを示します。

※〔知識及び技能〕に示す事項は〔思考力、判断力、表現力等〕に示す事項の指導を通して行うことを基本とします。

Step 3

単元の評価規準の設定

- ・「知識・技能」の評価規準の設定の仕方  
当該単元で育成を目指す資質・能力に該当する〔知識及び技能〕の指導事項の文末を「～している。」として作成する。
  - ・「思考・判断・表現」の評価規準の設定の仕方  
当該単元で育成を目指す資質・能力に該当する〔思考力、判断力、表現力等〕の指導事項の冒頭に、指導する一領域を「〔領域名〕において、」と明記し、文末を「～している。」として作成する。
  - ・「主体的に学習に取り組む態度」の評価規準の設定の仕方  
以下の①から④の内容を全て含め、単元の目標や学習内容等に応じて、その組合せを工夫することが考えられる。なお、〈 〉内の言葉は、当該内容の学習状況を例示したものであり、これ以外も想定される。
- ①粘り強さ〈積極的に、進んで、粘り強く等〉
  - ②自らの学習の調整〈学習の見通しをもって、学習課題に沿って、今までの学習を生かして等〉
  - ③他の2観点において重点とする内容（特に、粘り強さを発揮してほしい内容）
  - ④当該単元の具体的な言語活動（自らの学習の調整が必要となる具体的な言語活動）

Step 4  
単元の指導と評価の計画の決定

・各時間の学習活動を構想し、どの段階でどの評価規準に基づいて評価するかを決定します。

Step 5  
評価の実際と手立ての想定

・「おおむね満足できる」状況(B)、「努力を要する」状況(C)への手立てを想定します。

国語科においては、指導事項に示された資質・能力を育成するため、基本的には「内容のまとまりごとの評価規準」が単元の評価規準になります。

## ◆ 学習評価に関する事例

### 1 単元名

「読んで感じたことや考えたことをまとめよう（ごんぎつね）」（全9時間）

### 2 内容のまとめ

第4学年〔知識及び技能〕(1)言葉の特徴や使い方に関する事項、〔思考力、判断力、表現力等〕「C 読むこと」

### 3 単元の目標

- (1) 様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、語彙を豊かにすることができる。〔知識及び技能〕(1)オ  
(2) 登場人物の気持ちの変化について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像することができる。

〔思考力、判断力、表現力等〕C(1)エ

- (3) 文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつことができる。〔思考力、判断力、表現力等〕C(1)オ

- (4) 言葉がもつよさに気付くとともに、幅広く読書をし、国語を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。

〔学びに向かう力、人間性等〕

### 4 単元の評価規準

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	【POINT】
評価規準	①様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、語彙を豊かにしている。 <u>〔(1)オ〕</u>	①「読むこと」において、登場人物の気持ちの変化について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像している。 <u>〔C(1)エ〕</u> ②「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもっている。 <u>〔C(1)オ〕</u>	①進んで、登場人物の気持ちの変化について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像し、学習課題に沿って、感じたことや考えたことを文章にまとめようとしている。	【POINT】 観点の評価規準に <u>指導事項</u> を示すことにより、学習指導要領の指導事項との関連を明確にし、指導と評価の一体化を図ります。

### 5 指導と評価の計画（単元の流れ）（9時間）

時	学習活動	指導上の留意点	評価規準・評価方法等	【POINT】
1 ・ 2 ・ 3	○学習のねらいや進め方を捉え、学習の見通しをもつ。 ○「ごんぎつね」を読み、内容の大体を捉える。 ○初発の感想を書き、読み合う。 ○学習課題を確認する。 ごんの思いは兵十に伝わったのかについて、読んだことを基に、感じたことや考えたことを文章にまとめよう。	・学習のねらいと言語活動の内容を具体的に示し、学習の見通しがもてるようにする。 ・場面の様子、登場人物の言動や様子などを表す語句に着目して読むように指導する。 ・心に強く残ったこと、疑問に思ったことなどについて書くように指示する。 ・初発の感想のうち、多かった感想や疑問、学級全体で話し合いたいことなどを適宜取り上げていくようにする。	〔知識・技能〕① ワークシート ・ <u>場面の様子や登場人物の言動、様子など</u> を表す語句について着目し、語彙を豊かにしているかの確認	【POINT】 実際の評価場面では、ごんや兵十の気持ちの変化を、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像し、理由を明確にして記述している児童を「おおむね満足できる」状況(B)と評価します。
4 ・ 5 ・ 6 ・ 7	○ごんや兵十の気持ちが大きく変化した場面はどこかについて考えをまとめる。 ○取り上げた場面のごんや兵十の様子や気持ちを想像する。 ○学習課題に示されたごんの思いが伝わったかどうかについて、友達と考えを交流する。	・物語全体の場面の移り変わりを確認した上で、ごんと兵十のお互いに対する見方や行動が大きく動いた場面を取り上げる。 ・表情やしぐさなどを想像しながら読むように指導する。 ・行動や会話、場面の状況を表す言葉などに着目するように指導する。 ・ワークシートを基にして考えをまとめるよう指導する。 ・友達の意見で参考になったことを適宜付箋にまとめるよう指示する。	〔思考・判断・表現〕① ノート ・ <u>ごんと兵十の様子や行動、気持ちの変化について想像しているかの確認</u>  〔主体的に学習に取り組む態度〕① ワークシート・観察 ・ <u>ごんや兵十の気持ちの変化について場面の移り変わり結び付けて自分の考えをまとめようとしているかの確認</u>	【POINT】 自分の考えの理由となる部分を選んだり、交流の際に参考になった意見を付箋に書いて残すなど、進んで感想を書くための取組をしているかどうかを見取り、必要に応じて児童への指導を行って学習の改善を促します。
8 ・ 9	○初発の感想を振り返りながら、物語を読んだことに基づいて感じたことや考えたことを文章にまとめる。	・これまでの学習を振り返り、物語を読んで理解したことに基づいて、感じたことや考えたことをまとめるよう指示する。 ・初発の感想を振り返り、どのように自分の考えが変わったのかを書くよう指導する。	〔思考・判断・表現〕② ノート ・ <u>文章を読んで理解したことに基づいて、既習内容と結び付けて自分の感想や考えを記述しているかの確認</u>	【POINT】 自分の学びや変容を自覚できるような「振り返り」を設定します。 「本単元の学習」で ・意識したこと ・身に付いたこと ・やることができるようになったこと ・課題を解決するために試行錯誤したこと ・今後の学習や生活に生かせそうなこと など